

ID No.	130
研究課題名	造血器腫瘍に対する HSV-1 ウイルス療法の開発
研究代表者	門脇 則光 (京都大学大学院・准教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	藤堂 具紀 (東京大学医科学研究所・教授) 錦織 桃子 (京都大学大学院・助教) 河原 真大 (京都大学大学院・助教)
研究報告書	
<p>9種類のヒト造血器腫瘍細胞株に増幅型遺伝子組み換えHSV-1 (G47Δ)を感染させ、感染効率と生細胞数を計測したところ、5細胞株にG47Δが用量依存性に効率よく感染し、大部分の細胞が死滅した。</p> <p>次に、患者由来の造血器腫瘍細胞10新鮮検体を用いて、G47Δの感染効率と細胞の生存率を上記と同様に計測した。その結果、7検体でごく一部の細胞にHSV-1の感染が検出されたが、生存率に影響を与えなかった。3検体ではHSV-1の感染は検出されなかった。</p> <p>以上のように、ヒト造血器腫瘍細胞株では高率にG47Δの感染と細胞の死滅が見られたが、新鮮腫瘍細胞では感染・死滅はほとんど観察されなかった。今後培養条件を最適化することにより、新鮮腫瘍細胞に対するG47Δの感染効率の改善を図る。</p>	